

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における  
花房 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 花房 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

#### ・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率をやや下回っていたが、昨年度より差は縮まってきた。</li> <li>・言語についての知識・理解・技能にやや課題がある。</li> </ul>
	よくできた問題	・話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・「～たり、…たり」という表現に直して書く問題については、無解答率がやや高かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均正答率を下回っていた。</li> <li>・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題に課題がある。</li> </ul>
	よくできた問題	・二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・立場を明確にして、質問や意見を述べる問題の正答率が最も低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたが、数と計算においては、正答率が全国平均とほぼ同じだった。
	よくできた問題	・円周の長さを、直径の長さを用いて求める問題や二つの数量の関係を口、△などの記号を用いて式に表す問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・減法と乗法の混合した整数の計算の問題の正答率が低く課題がある。

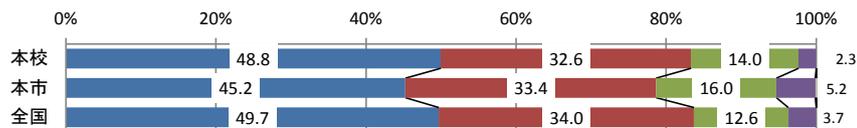
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、無解答率は全国よりも低く、問題を粘り強く取り組むことができるようになった。
	よくできた問題	・示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求める問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する問題の正答率が低かった。

③ 学校での学習状況に関する調査結果

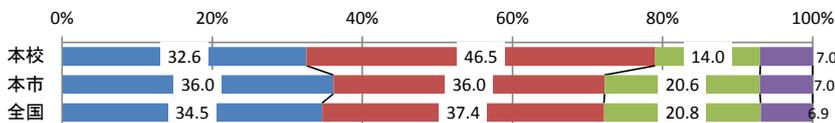
質問番号
質問事項

■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

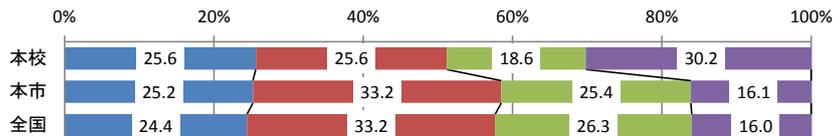
42
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



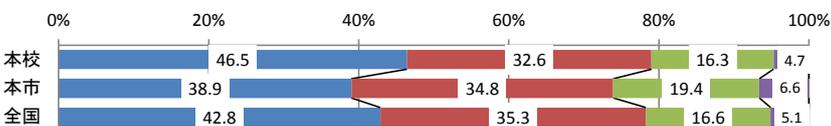
45
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う



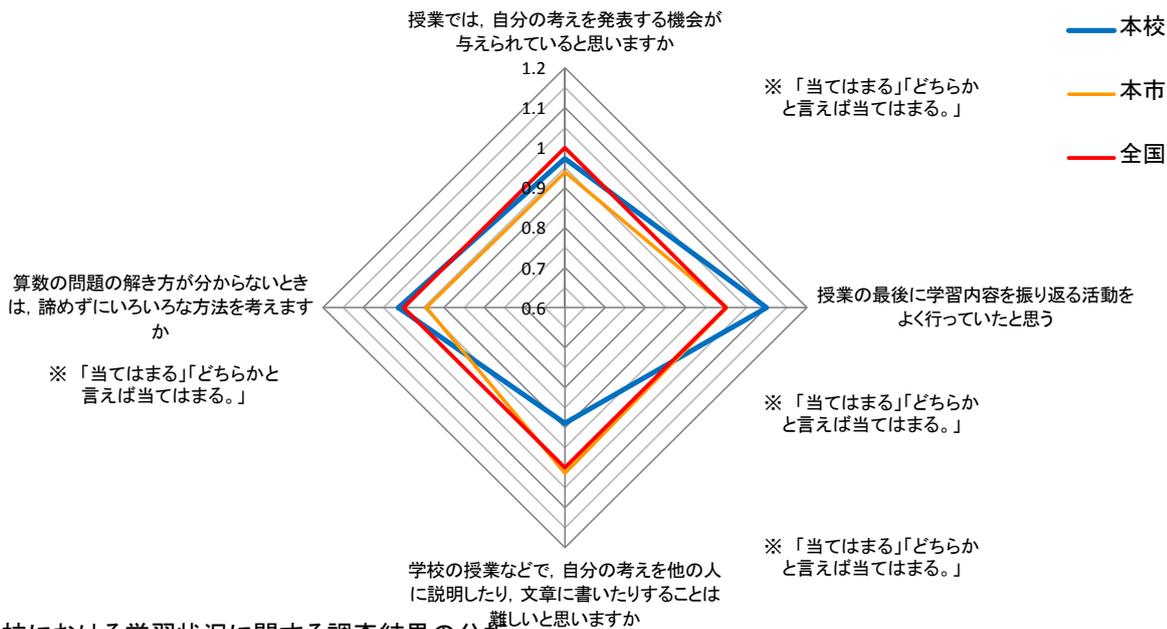
47
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



66
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

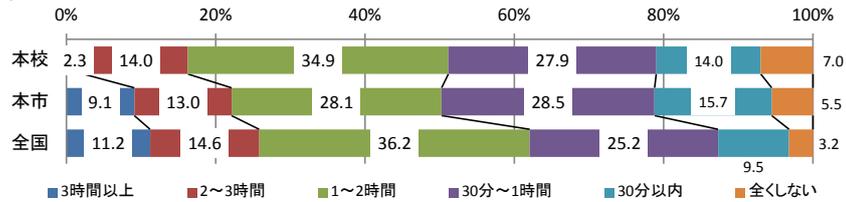
・発表する機会が与えられていると答えている児童は、ほぼ全国平均に達している。今後も発表する機会を増やしていく。

・自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思っている割合は、全国平均より低いが、昨年度より6ポイント上昇している。また、算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるという割合が全国平均に達し、昨年度より25ポイント上がっている。算数科の授業で、自分の考えを発表できる場を設けていることや、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置づけている成果がでていると考えられる。さらに継続して行く必要がある。

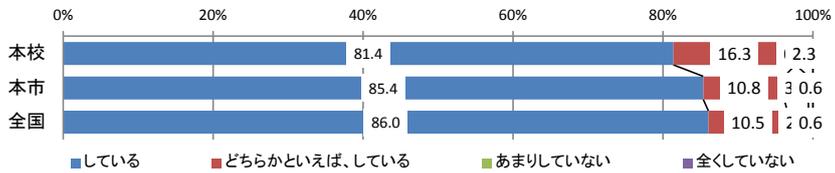
## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

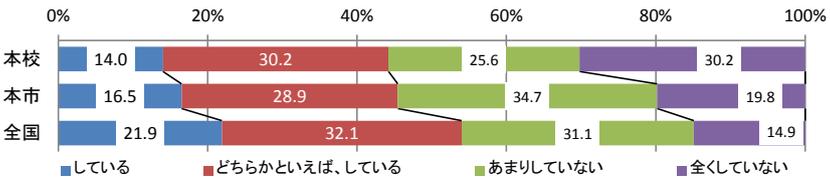
14  
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



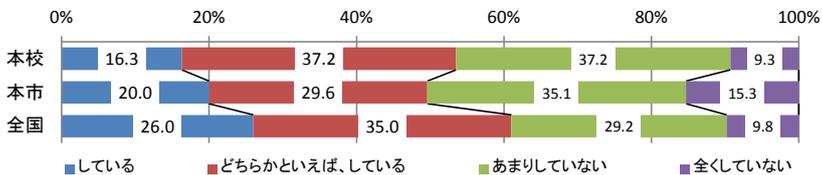
22  
家で、学校の宿題をしていますか



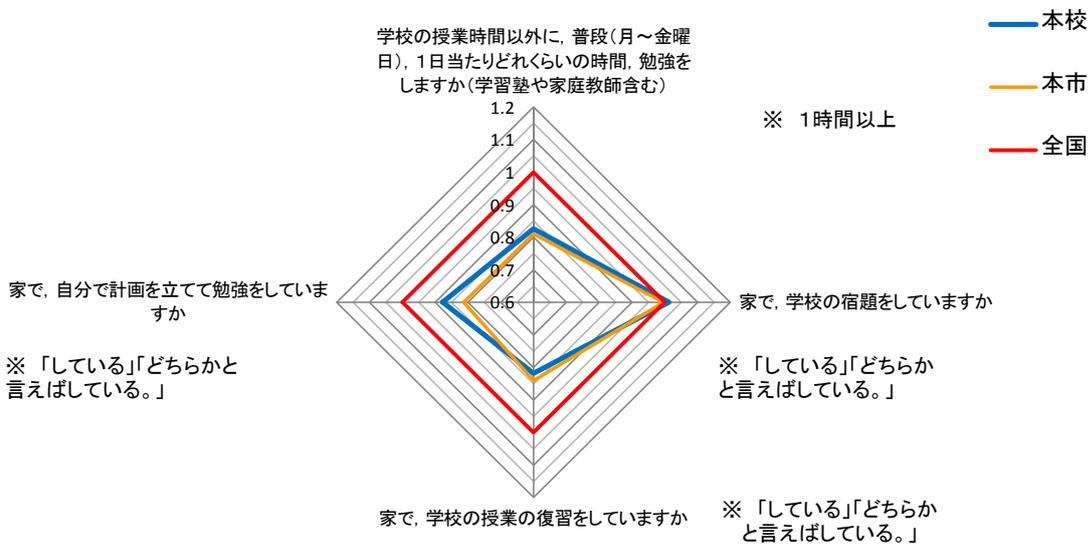
24  
家で、学校の授業の復習をしていますか



21  
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

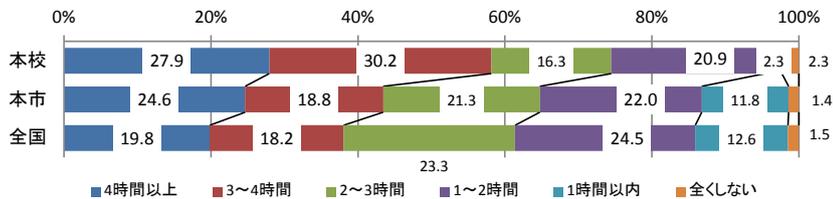
・家で学校の宿題をしている児童は、98%であったが、1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、昨年度より3ポイント減り、全国平均との差も縮まっていなかった。

・自分で計画を立てたり、授業の復習をしったりという児童も、全国と比べて、8～10ポイントも差があり課題が残る。

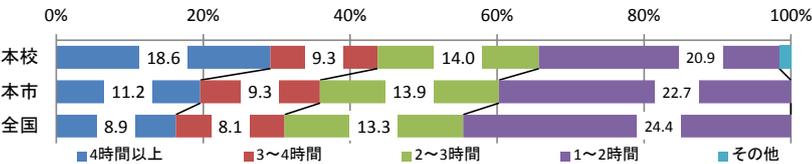
・「家庭学習のすすめ」等で家庭学習の量や時間、内容、進め方等を児童や保護者に働きかけているが、引き続き行っていく必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

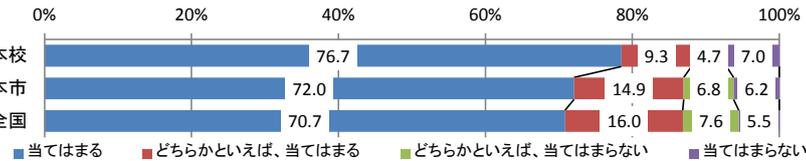
11  
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



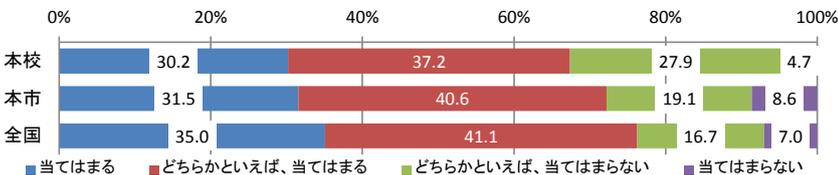
12  
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



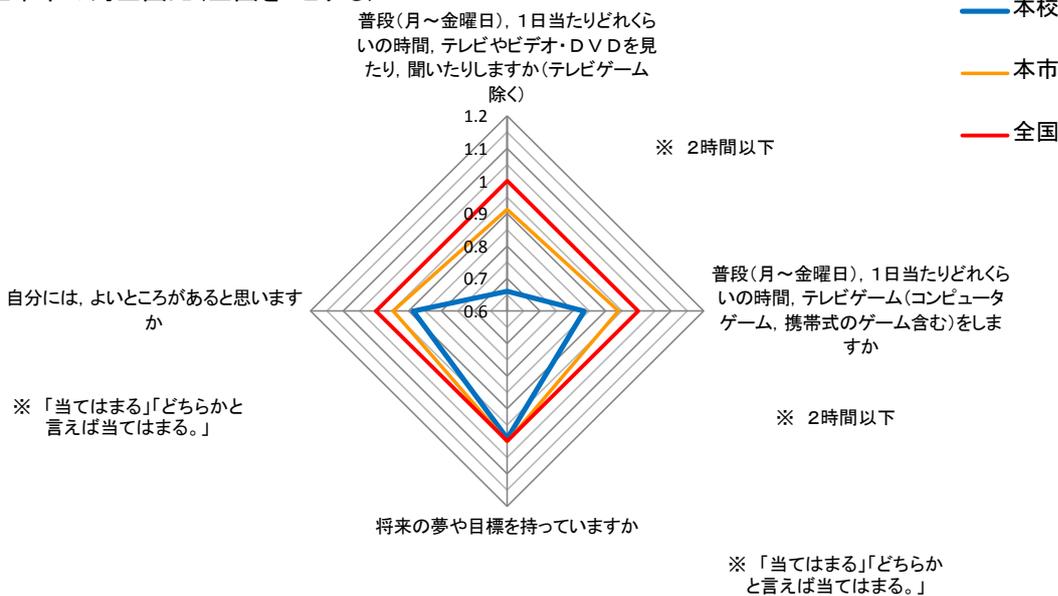
10  
 将来の夢や目標を持っていますか



6  
 自分には、よいところがあると思いますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・テレビ等の接触時間は増加し、3時間以上の長時間の利用の割合も増えていた。  
 ・テレビゲーム等の時間も増加し、4時間以上の長時間の利用の割合は、全国より10ポイントも高くなっていった。  
 ・将来の夢や希望をもっている児童は全国と同じくらいいる。しかし、自分には、よいところがあると思うと答えている児童の割合は、全国に比べると9ポイントも低く、自尊心が向上するような取組を行うことと、それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけさせることが必要である。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

##### ◎ 学力向上のための特設時間の実施

- ・スキルアップタイムを火曜日、水曜日、金曜日の朝8:35～8:50に設定する。  
火曜日:国語 水曜日:算数 金曜日:算数(基本的な問題に取り組む)
- ・職朝がある月曜日は読書、木曜日は各学級の取組を行う。
- ・国語の授業の始めに、ひまわりの音読を行う。
- ・国語・算数のアシストシート、基礎・基本を含む活用力を育成する教材集(5・6年)を職員室の棚に、過去問題や単元 別プリントを学年別引き出しに準備する。

##### ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・アシストシートやWEB問題を導入やスキルアップタイムで行い、答え合わせ、解説、やり直しを行う。
- ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。

##### ◎ 「書く」ことを習慣化

- ・学習のめあて、まとめをすばやく書けるようにする。
- ・学習の最後に、「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

##### ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別、教科別内容)

- ・(15分×学年)時間程度の課題を出す。(原則、読み・書き・計算を中心とした課題を出す。)
- ・自主学習ノートの活用
- ・「家庭学習の約束」の作成・実施
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
- ・家庭学習の必要性について、学校、学年、学級通信や学級・個人懇談会等で保護者への啓発を図る。
- ・冬休み・春休みの宿題に、過去問やアシストシートを活用

##### ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・PTA理事会や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。